

豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会 R7(2025).7.7

No.6

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ



豊岡市一丸となって子どもたちの非認知能力を高める関わりを！

演劇ワークショップって？(令和4年度から全市展開)

☆ 体や声、言葉を使った演劇的な表現活動を通して自分の考えや気持ちを表し、受け入れられる体験を行う。

- 異なる考え方や価値観をもつ他者と出会う
- 他者と自分との違いを受け止める
- 考えをすり合わせ、合意形成を図る
- 自己肯定感、自己有用感を味わう

★各校での子どもの様子：1回目(6月)の取組の振り返り

- コール&レスポンスができる児童が多い。
- 何をしても受け止めてくれる雰囲気・安心感が漂っているクラスが多い。
- 思考にストッパーをかけずにアウトプットできる児童が多い。
- 自分勝手な行動をする児童も、WSの中で自己を振り返る様子が見られた。
- エネルギーがすごくある(体力、集中力) ○同調圧力が無い。
- 全体の動きを一人一人が見ている。お互い寄り添い合ってその場をつくっている。
- ファシリテーターが、その先にある非認知能力の向上をめざして壁になる。立ちほだかる大人になったが、どんどん児童は、乗り越えていた。
- 力の出し方を知っている児童が多い(ルール等の理解含めて、どこまで遠い目標に行けるのか自分たちでファシリテートしていた。)

「豊岡市における非認知能力向上の取組」：令和4年度豊岡市教育フォーラムより

今、どのような力が求められているの？
～ 芸術文化観光専門職大学 平田学長より～

《大学入試で求められる力》

「共通テスト(一次試験)」では、主に「知識や技能」が問われます。

「二次試験」では「筋道を立てて考える力」「自分で考えたことを表現する力」等が問われます。

「他者と力を合わせて課題を解決する力」を問う大学も出てきています。

子どもに関わる時に気を付けていることは？
～ ファシリテーター わたなべ氏より～

「この子は〇〇な子」と決めつけないで、一緒に活動する仲間として関わります。

集団の中であっても「この子はどうして〇〇するの？」という一人一人の行動の理由を探します。

その子の「できる」ことを見つけ、「何ができているのか」「何をしようとしているのか」を考えて、一人一人と接します。

☆成功にも失敗にも同じくらいの価値があります。非認知能力を高めるためには、日々の授業や行事、家庭等での肯定的な関わりが欠かせません。結果よりも、頑張っている姿を「褒めて」「認めて」「一緒に喜んで」みませんか？